

小中学校の学力と数学検定導入の提案

【背景】市の学力調査によると、小学生は全国平均と同等かそれ以上の成果を上げていますが、中学生では数学や英語を中心に全国・県平均を下回る結果となりました。一方で、「粘り強さ」「地域との関わり」など意識面は高い傾向にあり、学びの意欲をどう高めていくかが課題となっています。

【市の取組】市では授業の改善や家庭学習の支援を進め、タブレットを使ったAIドリルの活用や放課後の補習など、個別に応じた学習機会を広げています。中学生を対象に「学びアップ教室」を月2回実施し、地域の方々の協力で基礎力の定着を図っています。また、小6と中2には英語検定（英検）の受験料を全額補助し、学ぶ意欲を高めるきっかけづくりに努めています。

【崎尾の提案】数学は「積み上げて理解する学問」であり、学年だけでは本当の理解度を測ることが難しいと指摘。そのため、理解の深さを客観的に示せる「数学検定」の導入を提案しました。検定を通して、自分の学習状況が見える形で確認でき、挑戦する意欲を高めることができます。また、英検と数検の両方を活用することで、教員の指導改善や放課後学習との連携にもつながると述べました。

【教育委員会の見解】現在は英語教育に重点を置いていますが、今後、数学検定の活用も含め、より幅広い学習支援の在り方を検討していくとしました。

【まとめ】>「学年ではなく、理解の深さを見つめる教育へ。」点数を競うのではなく、努力の過程を認め合う教育を進めることで、子どもたちが自信を持って学びに向かえる環境づくりを目指します。